

令和3年度

保育所の自己評価

社会福祉法人さつき会
不動さつき保育園

【評価対象期間】

令和3年4月1日～令和4年2月28日

【評価責任者】

東京都目黒区下目黒 5-18-4 不動児童館 2階
園長 中村 希美

保育所の自己評価

令和3年度

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。当園では、このことに基づき検討し、保育園（組織）としての自己評価について、評価の項目、視点方法および評価結果の示し方等について標準的な様式として作成しました。

当園は、「保育士の保育内容等の自己評価」を踏まえ、全保育士で園を評価及びこれに基づく改善を行うという一連の取り組みにより保育の質の向上を図ります。

保育所における自己評価の結果

- A: たいへんよい
 B: よい
 C: 一部検討を要する
 D: 改善を要する

◎ 保育の計画の編成と実施にかんする評価

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育方針	☆家庭のように安心し、ゆったりとくつろげる環境の下、子どもの「ありのままの姿」を受け止め丁寧な言葉かけや援助を行います。これらにより、子どもの様々な要求を満たし生命の保持及び情緒の安定を図ります。一人ひとりの育ちの道筋に沿って保育が行われるよう発達過程や興味・関心を慎重に見極め、子どもが主体的に行動していける「待つことのできる保育」「刺激を与えられる事の出来る環境」を重視します。	/				(2)年度初めに玄関ホールに掲示をした。その他の掲示物も見やすいように工夫することが出来た。 (3)入園時の説明会にて園のしおりを配布するとともに、説明をしている。その他、園だよりも紹介し、本園が大切にしている事を日頃から伝えるようにした。第三者評価の保護者アンケートでは、「保育理念・保育方針を理解している」と答えて下さった方が100%であった。今後も継続していきたい。
	(1)保育方針を年度初めに職員で確認している	○				
	(2)職員や保護者の見やすい場所に掲示している	○				
	(3)保護者に配布物を通して、保育理念や保育方針を周知している	○				
保育目標	☆にこにこ…よく食べ、よく遊び、よく眠り、よく笑う子ども きらきら…嬉しい、楽しい、大好きを表現できる子ども わくわく…面白そう、やってみたいを発見できる子ども	/				一人ひとりの生活リズムや成長段階を大切に、心地よい環境の中で伸び伸びと自己を発揮できるよう心掛けた。 (2)職員一人ひとりが保育目標について理解を深め、保育計画を立てる際にも意識していた。懇談会等で保護者に説明する際にも保育目標を踏まえた説明ができるようになってきた。
	(1)保育目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	○				
	(2)保育目標は、前年度の反省を活かし、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	○				
全体的な計画	(1)全体的な計画の作成には職員が参加している	○				(1)前年度を振り返り、全職員で検討している。 (2)より良い保育園となるよう引き続き実態把握に努める。
	(2)地域の実態や保育者の意向などを考慮して全体的な計画を作成している	○				
指導計画	(1)各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画になっているか	○				(1)毎月の計画を立てる前にクラス会議を行い、多方面から子どもの姿を振り返ることで、子どもの実態に即した計画となっている。 (3)家庭と保育園が連携を図ることで、生活が連続したものとなるよう、また季節感が感じられるよう配慮している。
	(2)環境構成や素材・用具を適切にいかした指導計画になっているか	○				
	(3)保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定している	○				

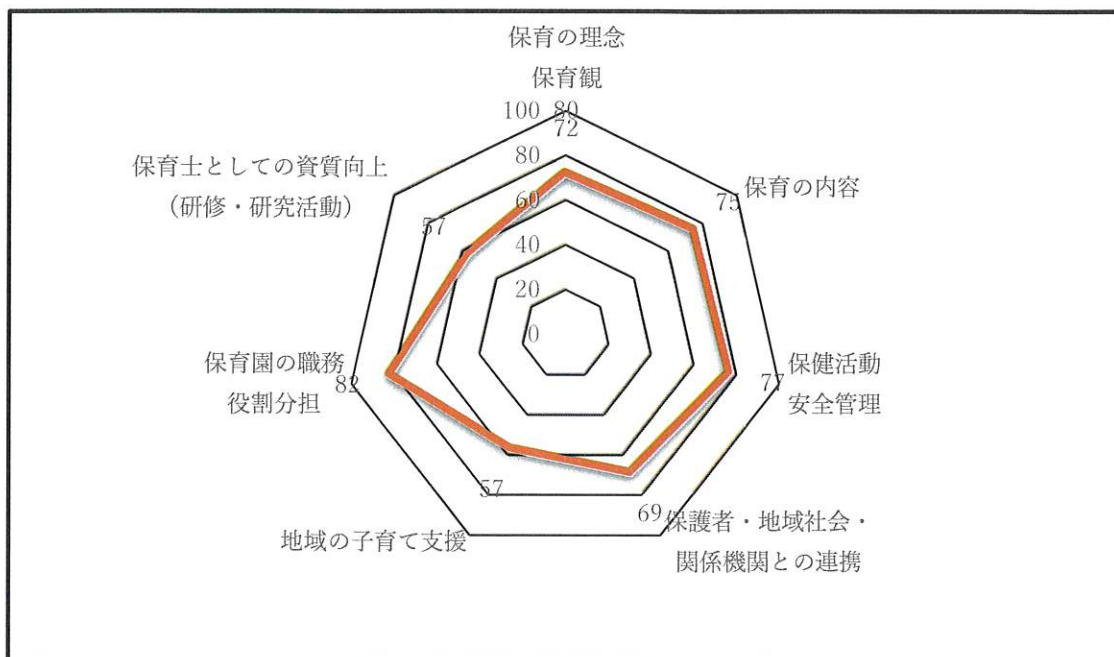
項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育内容	(1)子ども一人ひとりを理解し、受容しようと努めている	○				(3)日々の保育では、各担任が様々な体験活動ができるように工夫を凝らしている。また、クラブ活動や地域交流を新たに取り入れ、活動の幅を広げた。 (4)自然遊びを深める為、職員でアイデアを出し合い保育に取り入れた。地域交流では地域の方との交流やお仕事見学を楽しんだ。
	(2)基本的な生活習慣が身につけられるような活動内容及び環境が整備されている	○				
	(3)様々な表現活動が体験できるように配慮している	○				
	(4)身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	○				
	(5)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している	○				
保育・行事	(1)一日の流れ(デイリープログラム)は現行でよいか	○				(3)例年のことを振り返り、反省をいかして実施できた。行事の為ではなく、日々の生活の中に行事があるという点を大事にできている。 (5)第三者評価では、保護者の様々な思いを知ることが出来、改善できる所は見直しを行った。今後も保護者と子どもの為の保育園運営ができるよう、耳を傾けていく。
	(2)行事の種類や回数は適切か	○				
	(3)行事のねらいを計画や実施に十分いかしているか	○				
	(4)PDCA サイクル(計画・実施・評価・改善)の体制がとられているか	○				
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか		○			
健康管理	(1)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成の為、「園だより」「保健だより」などで情報を保護者に提供しているか	○				(1)お便りの書き方を改善し、今必要な情報を伝えられるように工夫した。 (2)年度の切り替わり時や長期休みなど、折に触れて乳児が巻き込まれやすい事故等の発信に努めた。
	(2)乳児の安全確保のために家庭・地域社会・関係機関と連携を図っているか	○				
	(3)感染症などを予防するマニュアルがあり、職員に周知し実行している	○				
食事	(1)食育を通して子ども達が楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	○				(1)例年の活動に加え、食育リーダーが中心となり食への興味関心、意欲につながるような取り組みを行なった。視覚から学べるものや、実際の食材に触れるもの等様々な方面からアプローチができた。 (2・3)については、本年度に関して該当なし。
	(2)アレルギー疾患などを持つ子どもに対し主治医からの支持を得て適切な対応をおこなっている	/	/	/	/	
	(3)アレルギー疾患などを持つ子どもへの食事の提供は、間違えのないよう個別のトレーなどで取り分け、調理師・保育士間で声出し確認をしている	/	/	/	/	
環境	(1)園内の掃除がなされ、清潔に保たれ子どもが心地よく過ごせるように配慮している	○				(3)季節を感じられる制作物を飾ったり、自然物に触れて遊べるような環境を整えたりと工夫できた。来年度はさらに季節感を大事にしていきたい。
	(2)園内外の衛生面・安全面に配慮している	○				
	(3)園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている		○			

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
人権尊重	(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮している	○				人権擁護のためのセルフチェックを利用し、保育者の意識確認を行った。子どもを尊重する保育の為に気を付けるべき点や出来る事が明確になり、意識を高めることができた。
	(2) 日本語によるコミュニケーションが困難な保護者に対して、園の意向や連絡事項が正しく伝わるように配慮している	○				
	(3) 性差への先入観による固定的な概念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	○				
子育て支援	(1) 送迎の際の対話や連絡事項への記載などの日常的な情報交換に加えて、別の機会を設け個人面談をおこなっている	○				(2) 小規模保育園なので、日頃から全職員で全家庭を支援していく意識をもっている。毎日の申し送りや月1回の職員会議等で情報を周知している。
	(2) 家庭の状況や保護者との情報交換が必要に応じて、関係職員に周知されている	○				
	(3) 保育士は日常から保護者や子どもの様子に注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	○				
	(4) あらかじめ年間行事の目標を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	○				
地域との連携	(1) 地域の関係機関などと連携を深めるようにしている（育児相談などに際して、専門機関と相談や連携が出来ている）		○			(2) 今年度初めてハロウィンパーティーを行い、地域の方との交流の場を設けた。来年度地域のイベントがあれば参加したい。 (3) 中学生の職場体験はなかったが、小学生がボランティアに来てくれ、園児との交流を図った。
	(2) 地域のイベントやまつりに参加し、地域の人々と交流できる機会を設けている		○			
	(3) ボランティア・職場体験等の人々を積極的に受け入れている	○				
	(4) 乳児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流している	○				
開かれた保育所づくり	(1) 地域の子育て支援として、保育室等を開放しているか	○				(1・2) おひさまタイムは1日2家庭限定にして行った。参加してくれた方との交流は充実しており、楽しんでもらっている。 (4) 情報発信については、引き続き効果的な方法を考えていく。
	(2) 地域の子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことが出来るような場の設定を行っている	○				
	(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか	○				
	(4) ホームページ等で施設の情報を発信しているか			○		
危機管理	(1) 避難訓練・交通安全指導を行い、計画に基づいて適切に実施している	○				職員会議にて職員の危機管理意識を高めている。 (2) 緊急時に慌てないよう、実践的な園内研修も行っている。
	(2) 緊急時、慌てずに対応できるよう医療機関の連絡先を表示している	○				
	(3) 乳児の安全を図るため、家庭・地域社会・関係機関と連携を図っている	○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
守秘義務	(1) 子どもの個別記録は、個人情報保護法に基づき管理している	○				個人情報の書類は確実に管理できるよう意識しており、園外で子どもに関する話等をしないよう周知している。
	(2) 保育業務で知りえた子どもの家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている	○				
園内外の研修	(1) 各研修会・講習会への参加体制の充実を図っている	○				キャリアアップ研修をはじめ、様々な研修会に参加できた。尚、園内研修も充実し、職員が持ち回りでやっている。
	(2) 研修の成果を日常の保育に活かし、乳児の育成に反映させている	○				
組織運営	(1) 能動的・合理的な運営組織になっている	○				(2) 妊娠や病気等で長期休みが必要となる状況が多く、人材の入れ替わりが多い年であった。(5) 人材の入れ替わりが多かったが、残った職員の意識が高く、相談しながら助け合っでの運営ができた。
	(2) 職員の配置は適材・適所である			○		
	(3) 係りや仕事の分担・役割は適切である	○				
	(4) 各種会議を適切かつ効率的に進めている	○				
	(5) 職員相互がそれぞれに全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく保育園の運営にかかわっている	○				
年齢別・クラス運営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	○				(3) 日々様々な活動をしているが、活動内容により異年齢保育を取り入れたりしている。また、クラブ活動は異年齢活動の為、それぞれに刺激を与え合いながら活動することができた。
	(2) 年齢別・クラス目標は、乳児の実態に即して設定している	○				
	(3) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っている	○				
	(4) 評価、資料(諸記録)を集積している	○				
保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス運営に活かされるような具体的保健対策を講じている	○				(1) 保健衛生リーダーが中心となり、保健・安全指導を行った。来年度は保健年間計画に基づき指導ができるようにしていく。
	(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している	○				
	(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発をおこなっている		○			
施設・設備	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的におこなっている	○				(1) 月1回の安全点検日を設け、確実に点検ができるようにしている。(3) 日頃から不審者対策をきちんと行い、職員研修も実践的に行っている。また突発の不審者対応訓練を警察署協力の下行い、対応力を上げている。
	(2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整備・保管している	○				
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っている	○				
	(4) 掲示板・掲示場所等を適切かつ効果的に活用している	○				
外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映している	○				開園以来初めてとなる第三者評価を受診した。保護者の意見は出来る限りで取り入れ、変更する点等を見直した。
	(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映している	○				

保育士自己評価 平均の分析グラフ

実施日 令和4年 11月



このグラフから、課題や特色を見つけ自己評価結果の活用にする

		平均点
1	保育の理念 保育観	72
2	保育の内容	75
3	保健活動・安全管理	77
4	保護者・地域社会・ 関係機関との連携	69
5	地域の子育て支援	57
6	保育園の職務・役割分担	82
7	保育士としての資質向上 (研修・研究活動)	57

保育士が行った「保育内容の自己評価」の平均は70%で、昨年度の41%から大きく増加した。今年度は「保育内容」を重点目標として取り組んできたこともあり、保育士が自信を持って保育をしてきた結果がこの自己評価にも現れたと感じる。子どもが主体的に遊べる環境や保育の流れ、行事等、今年度は保育士の工夫に満ちた1年であった。しかし、楽しい保育を実現するための労力・時間はかなりの負担になっている面もある為、見通しを持ち取り組むことや、保育士同士の協力において改善できる負担は軽減していきたい。「地域の子育て支援」も上昇傾向にあるが、コロナ禍で難しい面はあったので、今後は更なる向上を目指していくとともに、地域に根差した保育園となるよう努力する。

保育士は、資質向上を図るために自己評価を行い、課題等を踏まえ職務内容に応じた専門性を高める為、必要な知識及び技術の習得に努めなければならない。と保育所保育指針にうたわれています。令和3年度に行った自己評価を分析し、職員の専門性を高め、資質向上に努めていきたいと考えております。